

みずほマーケット・トピック (2017年10月20日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 16 日に 111 円台後半でオープンしたドル/円は一時 112 円近辺まで上昇したが、欧州時間にドル売りが強まる中、週安値となる 111.65 円まで下落。その後、量的緩和に反対しているスタンフォード大のテイラー教授が次期 FRB 議長の候補に残っていると報が伝わるとドル買いが強まり、112 円台前半まで反発した。17 日は米 9 月輸入物価指数が予想を上回ったことなどを背景に 112 円台半ばまで値を上げたが、米金利低下を受けて 112 円台前半まで下落。18 日は日経平均株価の上昇を横目にドル/円はじり高の展開。NY 時間に入り米株が大幅に上昇すると一時 113 円を上抜けたものの、引けにかけては翌日のイエレン FRB 議長とトランプ米大統領の面談を控えて様子見ムードが拡がり 112 円台後半まで小緩んだ。19 日は再び円売りの流れとなり週高値となる 113.14 円をつけたが、スペイン政府がカタルーニャ州の自治権停止を示唆するとリスクオフムードが拡がり、112 円台半ばまで急落。さらに米 9 月先行指数が予想を下回ったことなどを背景に 112 円台前半まで続落したが、米株が下げ幅を縮小すると 112 円台後半まで買い戻された。本日は同水準で安定推移している。
- 今週のユーロ/ドル相場は上下に激しい値動きとなった。週 16 日に 1.18 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、「カタルーニャ自治州のプチデモン首相がラホイ・スペイン首相への書簡で独立宣言について明確に回答せず」との報道を受けて、同問題への不透明感が強まり 1.17 台後半まで下落。もっとも、同水準では押し目買い意欲も強く 1.18 台前半まで値を戻した。その後、次期 FRB 議長がタカ派とみられるテイラー氏やウォルシュ氏になるとの思惑からドル買いが強まり、ユーロ/ドルは 1.17 台後半まで下落した。17 日もドル買い優勢の流れは続き 1.17 台前半まで続落したが、米金利低下を受けて 1.17 後半まで反発。18 日は一時週安値となる 1.1730 をつけたが、米株の上昇を背景にユーロ/円が急上昇するとユーロ/ドルは 1.18 台前半まで連れ高となった。19 日はスペイン政府がカタルーニャ州政府の自治権停止を示唆との報道を受け 1.17 台後半まで急落。しかし、欧米株が徐々に底堅さを取り戻し始めると、ユーロ/ドルは週高値となる 1.1858 まで急反発した。本日は 1.18 台半ばで落ち着いた値動きとなっている。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		今 週				
		10/13(Fri)	10/16(Mon)	10/17(Tue)	10/18(Wed)	10/19(Thu)
ドル/円	東京9:00	112.24	111.89	112.18	112.21	113.02
	High	112.30	112.29	112.48	113.05	113.14
	Low	111.69	111.65	112.04	112.14	112.30
	NY 17:00	111.86	112.19	112.21	112.93	112.55
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1831	1.1815	1.1794	1.1771	1.1795
	High	1.1875	1.1820	1.1800	1.1805	1.1858
	Low	1.1805	1.1780	1.1736	1.1730	1.1768
	NY 17:00	1.1825	1.1796	1.1766	1.1787	1.1853
ユーロ/円	東京9:00	132.81	132.19	132.32	132.06	133.28
	High	132.94	132.37	132.37	133.27	133.62
	Low	132.16	131.68	131.86	132.00	132.48
	NY 17:00	132.21	132.35	132.01	133.11	133.40
日経平均株価	21,155.18	21,255.56	21,336.12	21,363.05	21,448.52	
TOPIX	1,708.62	1,719.18	1,723.37	1,724.64	1,730.04	
NYダウ工業株30種平均	22,871.72	22,956.96	22,997.44	23,157.60	23,163.04	
NASDAQ	6,605.80	6,624.01	6,623.66	6,624.22	6,605.07	
日本10年債	0.06%	0.06%	0.07%	0.07%	0.07%	
米国10年債	2.27%	2.30%	2.30%	2.35%	2.32%	
原油価格(WTI)	51.45	51.87	51.88	52.04	51.29	
金(NY)	1,304.57	1,295.07	1,284.61	1,281.06	1,290.09	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 欧州では 26 日(木)に開催される ECB 政策理事会に注目が集まる。焦点となるのは、拡大資産購入プログラム(APP)の段階的な縮小(テーパリング)の取り扱いだが、事前報道を総合すれば「月 250 億ユーロに減額した上で、2018 年 9 月末まで延長」というのが 1 つの落としどころになると考える。今週 16 日のブルームバーグ報道によれば、APP による購入残高は「最大 2.5 兆ユーロ強」という具体的な数値が中銀当局者のコメントとして報じられている。このまま APP が予定通り 12 月末まで稼働した場合、その残高は 2.28 兆ユーロに到達するため、報道が事実であれば 2200 億ユーロが 2018 年以降に与えられた購入枠だと見込まれる。極右政党の台頭が懸念されるイタリア総選挙が来年 5 月までずれこむ可能性があることを踏まえると、制度廃止のリードタイムを出来るだけ長く取るために、ECB は月次購入額を現在の 600 億ユーロから 240 億ユーロに減額する一方、期間は 2018 年 9 月末まで延長するだろう。なお、正常化を模索しつつもユーロ高を避けたい ECB は、政策の柔軟性を確保するために APP の付帯条件に関する文言は据え置くと予想する。
- ・ 米国では 25 日(水)に 9 月新築住宅販売件数の発表がある。関連統計では、住宅ローン申請件数が月次平均でみると 3 か月ぶりに増加し、住宅ローン金利も 3 か月連続で低下している。一方、9 月 NAHB 住宅市場指数は低下したほか、9 月はハリケーンの影響で下押しされる可能性もあり、9 月の新築住宅販売件数は前月比▲1.8%の年率+55.0 万件と 3 か月連続で減少する見込みである。また、27 日(金)には 7~9 月期 GDP(1 次速報)が発表される。4~6 月期 GDP は前期比年率+3.1%(1~3 月期:同+1.2%)と堅調に拡大したが、最近のハリケーンによる被害が 7~9 月期の成長率を押し下げる公算は大きく、市場では同+2.6%と 4~6 月期から減速すると予測されている。もっとも、10~12 月期はその反動で高めの成長率となり影響は相殺されるとみられ、年を通してみれば米国経済が前年比+2%前後の平均的な成長軌道を辿っているとの姿になるだろう。金融政策関連では、FOMC メンバーは 21 日(土)からブラック・アウト期間に入るが、今晚にメスター・クリーブランド連銀総裁とイエレン FRB 議長の講演が予定されている。
- ・ 本邦では、27 日(金)に 9 月全国消費者物価指数(CPI)、10 月東京都区部 CPI の発表がある。9 月全国コア CPI(生鮮食品を除く総合)は前年比+0.7%と 8 月から横ばいになると予想されている。前年比でみたエネルギーの伸び幅が拡大するとみられるほか、外国パック旅行が前年に下落した反動で上昇することなどにより、コア CPI(生鮮食品及びエネルギーを除く総合)は同+0.3%と 8 月の同+0.2%から伸び幅が拡大すると市場では予測されている。なお、10 月東京都区部コア CPI の市場予想は同+0.5%と 9 月から横ばいを見込む向きが多い。

	本 邦	海 外
10 月 20 日(金)	—————	・ユーロ圏 8 月経常収支 ・米 9 月中古住宅販売
10 月 23 日(月)	・8 月景気動向指数(確報)	・米 9 月シカゴ連銀全米活動指数
24 日(火)	—————	・ユーロ圏 10 月製造業/サービス業/総合 PMI(速報) ・米 10 月製造業/サービス業/総合 PMI(速報) ・米 10 月リッチモンド連銀製造業景気指数
25 日(水)	—————	・独 10 月 Ifo 企業景況指数 ・米 9 月耐久財受注(速報) ・米 9 月新築住宅販売
26 日(木)	・9 月企業向けサービス価格	・ECB 政策理事会
27 日(金)	・9 月消費者物価 ・10 月東京都区部消費者物価	・米 7~9 月期 GDP(1 次速報) ・米 10 月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2017 年 10 月~)】

- 米 FOMC(10 月 31 日~11 月 1 日、12 月 12~13 日、1 月 30~31 日)
- ECB 政策理事会(10 月 26 日、12 月 14 日、1 月 25 日)
- 日銀金融政策決定会合(10 月 30~31 日、12 月 20~21 日、1 月 22~23 日)
- トランプ米大統領の訪日(11 月 5~6 日)

経済指標カレンダー(2017年10月)

月	火	水	木	金	週末
<p>2</p> <p>日本 日銀短観(7-9月期)</p> <p>日本 自動車販売台数(9月)</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(確報、9月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(8月)</p> <p>米国 ISM製造業景気指数(9月)</p> <p>米国 建設支出(8月)</p>	<p>3</p> <p>日本 マネタリーベース(9月)</p>	<p>4</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(確報、9月)</p> <p>米国 ADP雇用統計(9月)</p> <p>米国 ISM非製造業景気指数(9月)</p>	<p>5</p> <p>ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(9月7日開催分)</p> <p>米国 貿易収支(8月)</p> <p>米国 製造業新規受注(8月)</p> <p>米国 耐久財受注(確報、8月)</p>	<p>6</p> <p>日本 毎月勤労統計(8月)</p> <p>日本 景気動向指数(速報、8月)</p> <p>ドイツ 製造業受注(8月)</p> <p>米国 雇用統計(9月)</p> <p>米国 失業率(9月)</p> <p>米国 卸売売上高(8月)</p> <p>米国 消費者信用残高(8月)</p>	
<p>9</p> <p>日本 体育の日</p> <p>ドイツ 鋳工業生産(8月)</p>	<p>10</p> <p>日本 国際収支(8月)</p> <p>日本 景気ウォッチャー調査(9月)</p> <p>ドイツ 貿易収支(8月)</p> <p>ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)</p>	<p>11</p> <p>日本 機械受注(8月)</p> <p>米国 FOMC議事要旨(9月19-20日開催分)</p>	<p>12</p> <p>日本 貸出・預金動向(9月)</p> <p>日本 第三次産業活動指数(8月)</p> <p>ユーロ圏 鋳工業生産(8月)</p> <p>米国 生産者物価(9月)</p> <p>ワシントン(米国) G20財務相・中央銀行総裁会合(～13日)</p>	<p>13</p> <p>日本 国内企業物価(9月)</p> <p>日本 マネーストック(9月)</p> <p>ドイツ 消費者物価(確報、9月)</p> <p>米国 消費者物価(9月)</p> <p>米国 小売売上高(9月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月)</p> <p>米国 企業在庫(8月)</p> <p>ワシントンD.C. IMF・世界銀行年次総会(～15日)</p>	
<p>16</p> <p>日本 鋳工業生産(確報、8月)</p> <p>ユーロ圏 貿易収支(8月)</p> <p>米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月)</p>	<p>17</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(確報、9月)</p> <p>ドイツ ZEW景況指数(10月)</p> <p>米国 鋳工業生産(9月)</p> <p>米国 TICレポート(対外対内証券投資)(8月)</p>	<p>18</p> <p>米国 住宅着工(9月)</p> <p>米国 ページュブック</p>	<p>19</p> <p>日本 貿易収支(9月)</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月)</p> <p>米国 景気先行指数(9月)</p>	<p>20</p> <p>ユーロ圏 経常収支(8月)</p> <p>米国 中古住宅販売(9月)</p>	
<p>23</p> <p>日本 景気動向指数(確報、8月)</p> <p>米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)</p>	<p>24</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(速報、10月)</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(速報、10月)</p>	<p>25</p> <p>ドイツ IFO企業景況指数(10月)</p> <p>米国 耐久財受注(速報、9月)</p> <p>米国 新築住宅販売(9月)</p>	<p>26</p> <p>日本 企業向けサービス価格(9月)</p> <p>ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)</p>	<p>27</p> <p>日本 全国消費者物価(9月)</p> <p>日本 東京都都区消費者物価(10月)</p> <p>米国 GDP(1次速報、7-9月期)</p> <p>米国 個人消費(1次速報、7-9月期)</p> <p>米国 PCEコアデフレーター(1次速報、7-9月期)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)</p>	
<p>30</p> <p>日本 日銀金融政策決定会合(～31日)</p> <p>ドイツ 消費者物価(速報、10月)</p> <p>米国 個人消費・所得(9月)</p>	<p>31</p> <p>日本 失業率(9月)</p> <p>日本 家計調査(9月)</p> <p>日本 鋳工業生産(速報、9月)</p> <p>日本 新設住宅着工(9月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(9月)</p> <p>ユーロ圏 GDP(1次速報、7-9月期)</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(速報、10月)</p> <p>米国 雇用コスト(7-9月期)</p> <p>米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月)</p> <p>米国 消費者信頼感指数(10月)</p> <p>米国 FOMC(～11月1日)</p>				

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2017年11月)

月	火	水	木	金	週末
		<p>1</p> <p>日本 自動車販売台数(10月) 米国 ADP雇用統計(10月) 米国 ISM製造業景気指数(10月) 米国 建設支出(9月)</p>	<p>2</p> <p>日本 マネタリーベース(10月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、10月)</p>	<p>3</p> <p>日本 文化の日 米国 雇用統計(10月) 米国 失業率(10月) 米国 貿易収支(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 製造業新規受注(9月) 米国 耐久財受注(確報、9月)</p>	
<p>6</p> <p>ドイツ 製造業受注(9月) ユーロ圏 サービス業PMI(確報、10月)</p>	<p>7</p> <p>日本 毎月勤労統計(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 消費者信用残高(9月)</p>	<p>8</p> <p>日本 景気動向指数(速報、9月)</p>	<p>9</p> <p>日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) ドイツ 貿易収支(9月) 米国 卸売売上高(9月)</p>	<p>10</p> <p>日本 マネーストック(10月) 日本 第三次産業活動指数(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) 米国 財政収支(10月)</p>	
<p>13</p> <p>日本 国内企業物価(10月)</p>	<p>14</p> <p>ドイツ GDP(速報、7-9月期) ドイツ 消費者物価(確報、10月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月) ユーロ圏 GDP(速報、7-9月期) 米国 生産者物価(10月)</p>	<p>15</p> <p>日本 GDP(速報、7-9月期) 日本 鉱工業生産(確報、9月) ユーロ圏 貿易収支(9月) 米国 消費者物価(10月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月)</p>	<p>16</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(確報、10月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(11月) 米国 鉱工業生産(10月)</p>	<p>17</p> <p>ユーロ圏 経常収支(9月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 住宅着工(10月)</p>	
<p>20</p> <p>日本 貿易収支(10月) 米国 景気先行指数(10月)</p>	<p>21</p> <p>米国 シカゴ購買部協会景気指数(10月) 米国 中古住宅販売(10月)</p>	<p>22</p> <p>米国 耐久財受注(速報、10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 FOMC議事要旨(10月31日-11月1日開催分)</p>	<p>23</p> <p>日本 勤労感謝の日 ドイツ GDP(確報、7-9月期) ユーロ圏 製造業PMI(速報、11月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、11月) ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(10月26日開催分)</p>	<p>24</p> <p>日本 景気動向指数(確報、9月) ドイツ IFO企業景況指数(11月)</p>	
<p>27</p> <p>日本 企業向けサービス価格(10月) 米国 新築住宅販売(10月)</p>	<p>28</p> <p>米国 S&P500ロジックケース・シラー住宅価格(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月)</p>	<p>29</p> <p>ドイツ 消費者物価指数(速報、11月) 米国 GDP(2次速報、7-9月期) 米国 個人消費(2次速報、7-9月期) 米国 PCEコアデフレーター(2次速報、7-9月期) 米国 ページュブック</p>	<p>30</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 新設住宅着工(10月) ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、11月) 米国 個人消費・所得(10月)</p>		

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年10月19日	為替政策報告書と日米経済対話 - 忍び寄る日米FTA -
2017年10月18日	ECB政策理事会プレビュー - 「離れ物」を触るかのような正常化 -
2017年10月17日	「優等生の右傾化」が示唆する欧州のリスク
2017年10月16日	G20財務相・中央銀行総裁会議 - 最後のジョイフレ節 -
2017年10月13日	週末版(内部留保課税を巡る論点整理 - 何が正しくて、間違っているのか -)
2017年10月12日	FOMC議事要旨 - 危うい法廷弁護士のごとき政策運営 -
2017年10月11日	円相場の基礎的需給環境 - 円高地合い続く -
2017年10月10日	米9月雇用統計を受けて - 過信は禁物 -
2017年10月6日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月7日開催分) - APPは「小さく減らして長く延長、が有力 -)
2017年10月5日	正規雇用の賃金は本当に上がるのか?
2017年10月4日	好調過ぎる日銀短観に見る危うさ
2017年10月3日	「賃金と雇用の断絶」に関するIMF分析について
2017年10月2日	カタルーニャ混乱と反EU機運の関係性について
2017年9月29日	週末版
2017年9月27日	次期ECB総裁人事に関する現状整理
2017年9月26日	メインシナリオへのリスク点検 - 本邦政局リスクは後退 -
2017年9月25日	日銀金融政策決定会合を終えて - 「寝た子を起こす」反対票 -
2017年9月22日	週末版
2017年9月21日	FOMCを終えて - 短期は強気、長期は弱気金利見通し -
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年8月分)
2017年9月20日	衆議院解散・総選挙の為替、日銀総裁人事への影響などについて
2017年9月15日	週末版
2017年9月14日	日銀金融政策決定会合プレビュー - 総括的「再」検証も視野に -
2017年9月13日	ユーロ圏金融状況指数(MCI)に見るユーロ高の影響などについて
2017年9月12日	クーレ理事発言の真意 - ユーロ高はもう看過できない -
2017年9月11日	円相場基礎的需給環境 - ドルインデックス半値押しで思うこと -
2017年9月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて - 解せないユーロ買い -)
2017年9月7日	タカ派の優勢が強まるFOMC - フィッシャー辞任を受けて -
2017年9月6日	追い込まれる日銀 - 倒錯した政策運営の現状・展望 -
2017年9月5日	ECB政策理事会プレビュー - テーパリングまで至るのか? -
2017年9月4日	ユーロ買いに対する現状認識について
2017年9月1日	週末版
2017年8月30日	メインシナリオへのリスク点検 - 急浮上してきた地政学リスク -
2017年8月29日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月28日	ジャクソンホール講演 - イエレン・ドラギ講演のレビュー -
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年7月分)
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分) - 強まる為替への問題意識 -)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて - 疑われるフィリップス曲線 -
2017年8月16日	17年上半年の対米証券投資 - 下半期に向けてのみどころ -
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について - NY連銀消費者調査 -
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリー取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半年の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計 - 加速しない賃金と伸び悩む「質」 -
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状 - フラット化して下方シフト -)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想 - OECD景気先行指数を通じて -
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想 - 日銀議事要旨が示唆する戒め -
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状 - 調整は始まったばかり -
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検 - 新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」 -)
2017年7月27日	FOMCを終えて - 後任人事を見据えてハト派化も? -
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方 - シントラ発言の火は消せず -
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて - 次の論点は外交的視点 -)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について - 投機筋、PPP、金利差 -
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー - 「火に油」を避けるべく... -
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について - 現状の「異常さ」を見つめ直す -)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて - 花道の正常化は続く模様 -
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか?
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場基礎的需給環境 - 円キャリーの兆候はあるか? -
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨 - ドラギ総裁はしくじった模様 -)
2017年7月6日	FOMC議事要旨 - 正常化は資産バブル対応? -
2017年7月5日	ECB版テーパ - タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方 - 「正常化」ブームは流れを変えるのか -
2017年7月3日	都議選の影響を考える - 新しいリスクの浮上 -
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて - 「一時的」が流行る風潮の危うさ -
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検 - 引き続き目立つ円高材料 -
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	ブラットECB理事発言を考える - 影響力は侮れず -
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況 - リセットされたトランプトレード -
2017年6月21日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと - 信仰(faith)とデータ(data) -
2017年6月19日	日銀金融政策決定会合 - 「座して円高を待つ」状況へ -
2017年6月16日	週末版
2017年6月15日	FOMCを終えて - 「笛吹けど踊らず」の状況強まる -
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上げられない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会 - 「露払い」としてのFG文言修正 -
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて - 「不要なギャンブル」の成れの果て -)
2017年6月8日	英下院総選挙について - 直前の論点整理 -
2017年6月7日	110円割れで思うこと - 変わり始めた欧米の論調 -
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて - 杞憂の出口議論 -
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー - 出口戦略の順序に変更なし -)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計 - リスク回避の源泉 -
2017年5月29日	メインシナリオのリスク点検 - 目立つ円高リスク -
2017年5月26日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて - 依然、埋まらない日米物価格差 -)
2017年5月25日	FOMC議事要旨を受けて - 株価は耐えられるのか? -
2017年5月24日	相次いで弱体化するFRB高官 - 動揺する唯一の支え -